

栄養教諭部会研究計画

I. 研究主題

食生活の基本を通じて、
積極的に健康管理を目指す子どもの育成

II. 研究目的

1. 研究の経過

各地域の特色を活かした学校教育活動の中で、自ら健康管理ができる子どもの育成を目指して、学校給食を生きた教材として活用しながら、各学級担任や教科担任等と連携した食に関する指導を工夫する実践研究を進めている。

子どもたちの食に対する興味関心を高めるには、給食時間や各教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間など、学校教育活動全体を通じてそれぞれの特性を生かした体系的な指導が計画的かつ継続的に行われることが重要であると考えます。

平成28年度は、特別活動において担任教諭と栄養教諭のT・Tにより食に関する授業研究を行い、また、専門性を高めるための研究として、実技研修と理論研修を実施した。

平成29年度も、子どもたち一人ひとりがバランスのよい食事のとり方などについて自ら考え、正しい知識に基づいて判断し、望ましい食習慣を実践していく能力を身につけられるように、学校給食を生きた教材として活用することはもとより、栄養教諭の専門性を生かし、実践・理論・実技の3つのグループで、より効果的な食育についての研究を進めるとともに、学校教育全体での取組となるよう交流を深めていきたい。

2. 主題設定の理由

子どもたちが生涯にわたり、健康で生き生きとした生活を送るには、食への関心を高める指導と楽しい給食時間の繰り返しにより、望ましい食生活の基礎知識や習慣を身に付け、自己管理能力や社会性を養う必要があると考えます。

こうしたことから、子どもたちが望ましい食生活を実践するための支援のあり方について、次の指導目標に沿って研究を行う。

《食に関する指導目標》

- 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する（**食事の重要性**）
- 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける（**心身の健康**）
- 正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける（**食品を選択する能力**）
- 食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ（**感謝の心**）
- 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける（**社会性**）
- 各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ（**食文化**）
-

III. 研究内容

1. 専門性を向上させる研究

- ① 日本食を特徴づける食品や調理
- ② 学校における安全・衛生教育の方法

2. 子どもの食に対する関心を高める栄養教諭の支援のあり方

- ① 学校給食を生きた教材として活用する
- ② 体験的な活動や ICT 活用の工夫
- ③ 食育の視点を明確にした授業づくり

IV. 研究方法

1. 3つの研究グループ《実践グループ・理論グループ・実技グループ》ごとに研究を進め、理論の習得や課題の解決に向け取り組む。
2. 研究成果を授業公開によって発表する。さらに、部会協議において研究主題にせまる研究内容や成果等を部会員によって研究協議する。
3. 市町村研究団体のレポート交流を行い、本部会研究との関連が図られるよう推進委員と連携し、研究を進める。

V. 研究体制（組織）

1. 部会役員会は、部長・副部長・事務局長・事務局次長・研究員・HP担当者の計6名で構成する。
2. 推進委員会は、市町村研究団体の推進委員で構成する。
3. グループ研究協議会は、部会員がそれぞれ実践グループ・理論研グループ・実技研グループに所属し、課題解決のため研究を推進する。

VI. 年間計画

月	会 合 ・ そ の 他	内 容
4	石教研第一次研究協議会 役員研修会①・推進委員研修会①	研究計画の確認
5	役員研修会② グループ研究協議会①	第二次研究協議会運営方法検討 理論・実技研修会に向けて
6	グループ研究協議会② 実技研修会	理論・実技研修会打ち合わせ
7	グループ研究協議会③ 理論研修会	理論研修会打ち合わせ
8	グループ研究協議会④ 実践グループ研究協議会①	グループ研究まとめ 指導案検討会
9	役員研修会③ 実践グループ研究協議会②	第二次研究協議会運営計画の検討 指導案検討会
10	【専門部会第二次研究協議会】	授業研・実践交流
11	役員研修会④	石狩の教育の研究まとめ 年度の反省、次年度の研究計画
1	役員研修会⑤・推進委員研修会②	研究・部会運営のまとめ 次年度計画の確認
2	市町村第三次研究協議会	研究計画の提示

(文責 前川 和美)